

7. 市町村別人口

(1) 人口

— 四日市市の人口 274,184 人 —

三重県の人口を市町村別にみると、県下69市町村（13市47町9村）のうち、四日市市が274,184人と最も多く、次いで鈴鹿市174,103人、津市157,178人、松阪市118,727人、伊勢市104,162人と続いており、この5市が10万人を超えている。この順位は昭和60年と全く同じである。

また、町村では、菟野町が32,264人と最も多く、次いで東員町25,447人、明和町21,483人の順となっている。（表9）

(2) 人口密度

— 桑名市の人口密度 1,706 人 —

人口密度を市町村別にみると、桑名市が1㎢当たり1,706人と最も多く、以下津市1,546人、鶴殿村1,492人、小俣町1,450人と続き、11市町村で1,000人を超えている。（表10）

表9 人口10万人以上の市

順位	市名	人口(人)
1	四日市市	274,184
2	鈴鹿市	174,103
3	津市	157,178
4	松阪市	118,727
5	伊勢市	104,162

表10 人口密度1,000人以上の市町村

順位	市町村名	人口密度(人/㎢)	順位	市町村名	人口密度(人/㎢)
1	桑名市	1,706	7	香良洲町	1,363
2	津市	1,546	8	御園村	1,247
3	鶴殿村	1,492	9	川越町	1,245
4	小俣町	1,450	10	朝日町	1,137
5	四日市市	1,390	11	東員町	1,121
6	楠町	1,369			

(3) 市町村別人口の推移

— 33市町村で人口増加 —

市町村別に昭和60年～平成2年の人口増減をみると、69市町村のうち33市町村（8市21町4村）で増加し、残りの36市町村（5市26町5村）で減少している。（表11）

表11 人口増減率別市町村数（昭和45年～平成2年）

人口増減率	昭和45年 ～50年	昭和50年 ～55年	昭和55年 ～60年	昭和60年 ～平成2年
総数	69	69	69	69
人口増加市町村	43	40	42	33
増加率 20.0%以上	1	3	3	2
10.0～19.9%	10	6	3	2
5.0～9.9%	12	8	12	6
0.0～4.9%	20	23	24	23
人口減少市町村	26	29	27	36
減少率 0.0～4.9%	18	23	20	25
5.0～9.9%	7	5	6	9
10.0～19.9%	1	0	1	2
20.0%以上	0	1	0	0

— 東員町の増加率 34.3% —

人口増加率の高い市町村をみると、東員町の34.3%を最高に、以下名張市22.1%、青山町15.8%、木曾岬町13.6%と続いている。この4市町が10%を超えている。

全国速報によると、東員町は全国の町村のうち第11位、名張市は全国の市のうち第3位の人口増加率であった。

一方、減少率の高い市町村をみると、紀和町の12.3%を最高に、以下紀勢町10.2%、宮川村 9.8%、尾鷲市 8.8%と続いている。

全国速報によると、尾鷲市は全国の市のうち第13位の人口減少率であった。

なお、今回、飯高町が人口減少率の高い市町村の上位5位に入っているが、これは同町の蓮ダムの工事関係者が、この5年間にまとまって転出したことが、大きく影響している。(表12-1、表12-2)

表12-1 人口増加率の高い市町村

順位	市町村名	増加率(%)
1	東員町	34.3
2	名張市	22.1
3	青山町	15.8
4	木曾岬町	13.6
5	長島町	7.2

表12-2 人口減少率の高い市町村

順位	市町村名	減少率(%)
1	紀和町	12.3
2	紀勢町	10.2
3	宮川村	9.8
4	尾鷲市	8.8
5	飯高町	8.6
5	大内山村	8.6

昭和55年～60年の人口増加率と比べると、引き続き増加している市町村数は、30市町村(8市19町3村)であるが、増加率が上昇したのは6市町(2市4町)で、変わらなかったのは3市町(2市1町)、低下したのは21市町村(4市14町3村)であった。また、人口が減少から増加へ転じたのが3町村(2町1村)、増加から減少へ転じたのが12町村(10町2村)であった。

さらに、人口が引き続き減少している市町村数は24市町村(5市16町3村)で、このうち、減少率が上昇したのが23市町村(5市16町2村)、低下したのが1村であった。(表13)

表13 市町村別人口増減率類型

引き続き増加			減少から増加へ		引き続き減少	
増加率上昇	同率	増加率低下	減少から増加へ	増加から減少へ	減少率低下	減少率上昇
津市 四日市市 東員町 一志町 伊賀町 青山町	鈴鹿市 亀山市 菰野町	松阪市、桑名市 名張市、久居市 多度町、長島町 木曾岬町、大安町 関町、美里村 安濃町、嬉野町 三雲町、明和町 玉城町、小俣町 御園村、度会町 阿山町、阿児町 鶴殿村	楠町 河芸町 大山田村	北勢町 員弁町 朝日町 白山町 多気町 大台町 勢和村 二見町 島ヶ原村 大王町 志摩町 紀宝町	大内山村	伊勢市、上野市 尾鷲市、鳥羽市 熊野市、藤原町 川越町、芸濃町 香良洲町、美杉村 飯南町、飯高町 宮川村、南勢町 南島町、大宮町 紀勢町、浜島町 磯部町、紀伊長島町 海山町、御浜町 紀和町
2市4町	2市1町	4市14町3村	2町1村	10町2村	1村	5市16町2村

(4) 男女別人口

— 白山町の性比 105.9 —

市町村別人口を男女別にみると、性比が100を超えている、すなわち女子より男子が多い市町村は、白山町(105.9)、鈴鹿市(102.6)、大安町(100.7)の3市町である。これは、昭和60年と全く同じである。これらの市町で女子より男子が多いのは、白山町には男子生徒が圧倒的に多い全寮制高等学校が、鈴鹿市及び大安町には、男子単身者が多数就業している企業が立地しているためである。

一方、性比の低い市町村は、紀和町（80.3）、大王町（85.1）、志摩町（86.5）などとなっている。（表14）

表14 性比の高い市町村、低い市町村

性比の高い市町村			性比の低い市町村		
順位	市町村名	性比	順位	市町村名	性比
1	白山町	105.9	1	紀和町	80.3
2	鈴鹿市	102.6	2	大王町	85.1
3	大安町	100.7	3	志摩町	86.5
4	木曾岬町	98.9	4	海山町	86.7
5	亀山市	97.8	5	大内山村	86.8

8. 人口重心

—— 人口重心 北へ 928m 移動 ——

平成2年10月1日の市町村別人口に基く三重県の人口重心は、北緯34度42分49秒、東経 136度31分30秒となり、この位置は、津市役所の東1,578m、南 234m の同市の海岸町付近である。

人口重心は、人口の地域分布を集約するものであり、ある範囲の地域を1つの平面とみなし、その上に分布しているそれぞれの人が同じ重さを持つと仮定した場合の、この平面を支える点のことである。

昭和60年の人口重心が北緯34度42分19秒、東経 136度31分30秒であったので、この5年間に、東へ0m、北へ928m移動したことになる。

なお、三重県の人口重心は、各市町村役場の位置に、各市町村の人口重心があるものと仮定して計算した。

また、全国の人口重心は、北緯35度37分08秒、東経 136度57分17秒の、岐阜県郡上郡美並村長良川鉄道半在駅の東北東約 650 m の位置である。

表15 三重県の人口重心

	北緯	東経	大 体 の 位 置
昭和60年	34度42分19秒	136度31分30秒	津市・伊勢湾海洋スポーツセンター 津市・海岸町付近
平成2年	34度42分49秒	136度31分30秒	
東西移動	—	0 m	
南北移動	928m	—	

9. 世 帯

—— 三重県の世帯数は 545,834世帯 ——

三重県の世帯数は、545,834世帯で全国速報による全国世帯数 41,016,255 世帯の 1.3%を占め、全国第24位であった。

昭和60年と比べると、37,749世帯、率にして 7.4%の増加であった。

全国速報によると、すべての都道府県で世帯数は増加しており、全国の増加率は三重県を 0.2ポイント上回る 7.6%であった。

1世帯当たり世帯人員は、三重県は全国第18位の3.28人、全国は3.01人であり、昭和60年と比べると、前者は0.16人、後者も0.16人の減少である。すべての都道府県で、世帯の増加率が人口の増加率を上回ったため、1世帯当たり人員は全都道府県で減少している。

—— 四日市市の世帯数 85,856世帯 ——

三重県の世帯数を市町村別にみると、四日市市が85,856世帯と最も多く、県全体の15.7%を占めており、以下、津市53,900世帯、鈴鹿市53,730世帯と続いている。（表16）

一方、世帯数の少ない市町村をみると、大内山村が 614世帯と最も少なく、次いで、島ヶ原村の 767世帯、紀和町の 1,002世帯と続いている。

1世帯当たりの人員についてみると、最も多いのは度会町の4.31人、次いで、阿山町4.10人、多気町4.08人と続いております、このほか、多度町、員弁町、木曾岬町で4人を超えている。また、最も少ないのは、紀和町の2.06人で、以下、御浜町2.58人、尾鷲市2.61人と、県南部の市町村が続いている。（表17）

表16 市町村別世帯数

多い市町村			少ない市町村		
順位	市町村名	世帯数	順位	市町村名	世帯数
1	四日市市	85,856	1	大内山村	614
2	津市	53,900	2	島ヶ原村	767
3	鈴鹿市	53,730	3	紀和町	1,002
4	松阪市	36,833	4	美里村	1,171
5	伊勢市	32,568	5	勢和村	1,436

表17 市町村別1世帯当たり人員

多い市町村			少ない市町村		
順位	市町村名	1世帯当たり人員	順位	市町村名	1世帯当たり人員
1	度会町	4.31人	1	紀和町	2.06人
2	阿山町	4.10	2	御浜町	2.58
3	多気町	4.08	3	尾鷲市	2.61
4	多度町	4.06	3	熊野市	2.61
5	員弁町	4.03	5	紀宝町	2.75

— 東員町 38.5%の増加率 —

世帯数の昭和60年～平成2年の増減を市町村別にみると、55市町村(11市38町6村)で増加し、残る14市町村(2市9町3村)で減少している。

増加数についてみると、四日市市が7,990世帯と最も多く、以下、津市5,343世帯、鈴鹿市4,871世帯と続いており、一方、減少数については、尾鷲市の335世帯を最高に、以下、熊野市191世帯、飯高町180世帯と続いている。(表18)

また、増加率についてみると、東員町の38.5%を最高に、以下、名張市の27.6%、青山町の18.4%と続いており、一方、減少率については、飯高町の8.5%を最高に、以下、紀和町6.2%、宮川村4.4%となっている。(表19)

表18 世帯数の増加数・減少数

増 加			減 少		
順位	市町村名	増加数	順位	市町村名	減少数
1	四日市市	7,990	1	尾鷲市	335
2	津市	5,343	2	熊野市	191
3	鈴鹿市	4,871	3	飯高町	180
4	名張市	4,215	4	宮川村	68
5	桑名市	2,326	5	美杉村	67

表19 世帯数の増加率・減少率

増 加			減 少		
順位	市町村名	増加率	順位	市町村名	減少率
1	東員町	38.5%	1	飯高町	8.5%
2	名張市	27.6	2	紀和町	6.2
3	青山町	18.4	3	宮川村	4.4
4	木曾岬町	17.3	4	尾鷲市	3.1
5	大安町	15.7	5	美杉村	2.3